クーラントチェンジャー　–使用方法–

品番 RT919H

セット内容	
本体	1個
キャップアダプター	6個

汎用アダプター

キャップアダプター

1．　エンジン及びラジエターが熱い時は、ラジエターキャップを絶対に開けないでください。

各車両メーカーの車輌の修理書に従い冷却水をドレンコック等より
完全に抜いてからご使用ください。

アダプターの選択

アダプターの取り付け

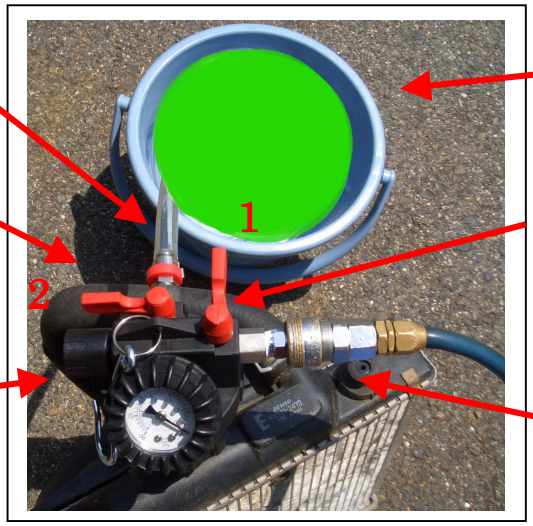
ラジエターへの取り付け

エンジンが完全に冷えた状態で車輌のラジエターキャップを外し車両のラジエターキャップ取付け部の内径に密着するキャップアダプターを選んで、本体に取り付けて下さい。
次に、本体をキャップ取付け部に確実に差し込んでください。金色部分を締め込み、
本体を手で押さえてキャップアダプターを密着させてください。
バケツ等に注入するクーラント液を準備してください。

＊ リザーバータンクへのホース部よりエアーを吸い込む時がありますので
ホースピンチャー等で押さえるか汎用アダプターをご使用ください。
車輌が古い、ラジエターホースが劣化して硬化している、クラックがあるようなホースには使用しないでください。真空引きでホースが破損する場合があります。

使用時は、エアーコンプレッサーのエアー圧を
0.6～0.8MPa（6～8Kｇｆ/㎠）でご使用ください。
エアー圧が高いとラジエターを破損する恐れがあります。

２．冷却システム内の真空引き



新冷却水吸入ホース

コック２（吸入ホース用）
（コックを閉めた状態）

エアー排出口
エアー又は冷却水が排出する場合がるので
車輌及び人体にかからない様に軽くウエス等を掛けてかからないように
注意してください。

注入する為の冷却水

コック１（エアー用）
（コックを閉めた状態）

エアーコンプレッサーからのエアーを接続

コック１と２を全て閉じた状態で
コック１（エアー用）にエアーコンプレッサーからのエアーホースを接続してください。
コック２（吸入ホース用）冷却水注入用ホースの吸い上げ部分を注入するクーラント液に完全に浸してください。

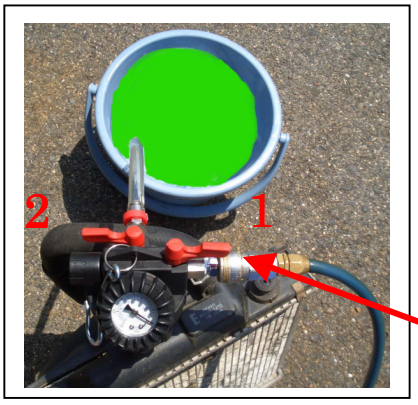
注入用ホース内のエアー抜き

コック２及びコック１を開きクーラント液が本体まで吸い上がるまで
コック２を開いて、吸い上がるとコック２を閉じてください。
※ 吸い上げ過ぎに注意してください。吸い上げ過ぎるとエアー排出口から冷却水が排出されます。

冷却システム内の真空引き作業

本体のコック２を閉じた状態で
コック１を開き、負圧計が止まるまで、エアーを流してください。
負圧計の針がぶれて真空状態にならない時は、本体接続部がしっかり密着しているか確認してください。車輌のラジエターのドレン及びホース、リザーバータンクへのホース等からエアーが混入していないか確認してください。冷却システムにクーラントの漏れがあ時も真空になりません。

真空引きを長時間行うとラジエターを破損する恐れがありますので
長時間の真空引きを行う時は、お気をつけてください。

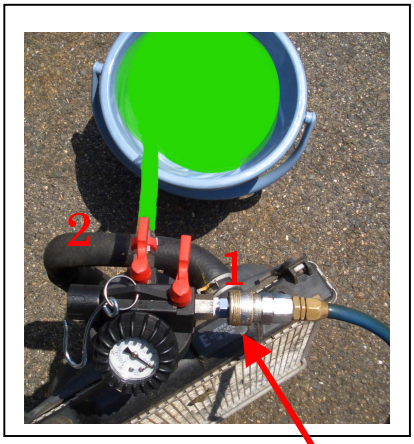


冷却システム内の真空引き作業時の
コック１を開いた状態

真空引き時
コック１：開
コック２：閉

３．クーラント液の注入

負圧計が止まったら、再度吸い上げ部分が注入するクーラント液に
完全に浸かっていることを確認し、コック２を閉めてから、コック３を開けてください。



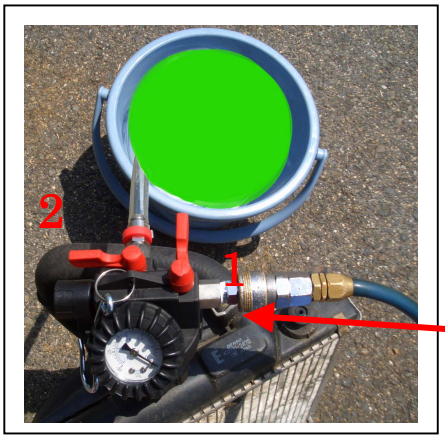
クーラント注入作業時の
コック１をを閉じて
コック２開いた状態

クーラント注入時
コック１：閉
コック２：開

※ クーラント注入中に吸い上げ部分が
クーラント液に浸かっていないと
システム内にエアーが混入します。
エアーが混入した場合は、
作業２からやり直して下さい。

４．

メーターが正圧になったら、クーラントの注入は完了です。
コック２を閉めてから、本体をラジエターから取り外してください。



クーラント注入作業時の
コック１をを閉じて
コック２開いた状態

■　真空引きが出来ない場合の対処法
エアー排出口にごみが詰まりエアーを排出する穴が塞がれてしまい、真空引きが出来なくなることがあります。
そういった場合は、下記手順で作業を行って下さい。
１．本体にエアーホースを接続している場合は外して下さい。
２．本体コック１を開いて下さい。コック２は閉じて下さい。
３．エアー排出口のアダプターを外して下さい。
４．本体下部（ラジエターに接続する部分）よりエアーガン等でエアーブローして下さい。
ごみを取り除いたらエアー排出口のアダプターを取り付けてご使用下さい。

輸入販売元
有限会社ラグナ
山口県周南市大字久米 3076-3
TEL　0834-36-1300
FAX　0834-36-0550